



株式会社荏原製作所

業 種／製造業
 主な事業内容／風水力事業、環境プラント事業、精密・電子事業
 従業員数／単体4,047人、連結17,480人(2020年12月末現在)



創業初期(大正)の東京・浅草田町ポンプ場向け大型ポンプ(本社展示)

●建物の被害状況を 確認する

チェックリストに基づき、水準器やビー玉を使い、転がして建物被害を点検確認する。アナログ的な方法も最大限有効活用していく



訓練

本社を対策本部とした全社一斉の防災訓練で災害時に備える

災害時において「優先はまず人命」と考えている。毎年全社で地震を想定した合同訓練を行い、社長を本部長とした本社対策本部と各現地本部による安否確認、被害状況の把握等を実施。首都直下型地震被害も想定し、大阪支社で統括本部をバックアップする訓練なども行っている。同時に、全拠点では避難訓練や消防訓練などを実施している。

全社員は年3回、一斉に安否確認システムへの対応訓練を行い、使い方の習熟、登録不備の解消に努めている。



執行役を対象にした訓練。一部役員はリモートでの参加

対応方針の発信・支援など

現地から対策本部に報告

現地本部(事業所・事務所・支店)

富津事業所 (千葉)



津波を想定し、屋上へ避難する訓練



屋上へ避難した後、状況を把握し屋外へ



富津事業所内本部での対策会議の様子

被害状況などを確認し、本社への報告、現地対応を検討

藤沢事業所 (神奈川)



地区ごとに避難し、決められた場所で待機



地区隊員から本部へ安否、怪我人等を報告



藤沢事業所の災害対策本部会議

被害状況などを確認し、本社への報告、現地対応を検討

各事務所 各支店



本社

羽田本社(東京)が被災した時は大阪

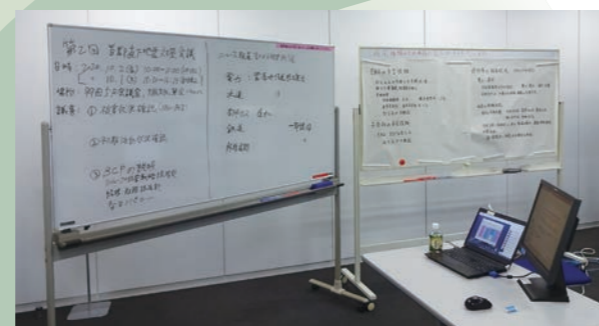
対策本部に設置している衛星電話

停電に対応するためのポータブル蓄電池

収納したソーラーパネル

各執行役の自宅にもポータブル蓄電池を常備

ソーラーパネル



全員が参集せず、電話で会議を行うリモート訓練も実施している



社屋裏のディーゼル発電機も操作手順を常に訓練

備蓄

各フロアに設置された備蓄品を迅速に配布

備蓄品を配布しやすいように各階に専用ロッカーを設置し、配布マニュアルも策定している。水は夏季の脱水等の対策として、ひとり2Lを追加配備した。

備蓄品はデータから算出した常時建物内にいる人数分のほか、大田区との協定に基づく津波時の受入人数分を確保している。備蓄リストは全社を一覧にして確認できるようにしている。



一斉帰宅の抑制をポスターで社員に周知



一か所にあった備蓄品を各フロアに分散



各階ごとにまとめられた備蓄品



2019年、台風第15号による千葉県の大規模停電時に、本社から千葉県の当社拠点へ備蓄品を支援した